

2017年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2017年度学校自己評価」を報告するものです。

① 自己評価は次の13領域（部署）で実施した。 ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年） ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）

② 評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
- ・年度末に、実践内容について評価した。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。

③ 改善・向上策 ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

例 学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

中1 学校自己評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を①「人はそれぞれの歌を持つ」、②「学習の習慣をつけよう」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. オリエンテーションキャンプ・学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げ、実際のクラスや学年の活動の中で生かせるようにした。1学期には「クラスの安心ルール」を作り、一人一人が尊重されるクラスの土台作りを行った。 2. 手帳をつけることによって、主体的に自分の時間を過ごせるように意識させた。特に結果としての成績ではなく学習の習慣をつけ、結果ではなく経過を大切にできるよう心掛けた。	B	*手帳を上手に使用して、学校生活を送れる生徒が大半であったが、うまく活用できない生徒も2学期ごろより散見された。細やかな声かけ、励ましを徹底する必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 特にあいさつの奨励、ながら携帯の禁止、服装・頭髪を端正にということを重視。教師間で申し合わせた。 2. 常に学年団内で生徒の話をオープンに行い、学年の生徒は学年全体でケアするように気をつけた。	B	*特に会議を持たなくても、生徒情報が常に交換されるようになっていた。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	*中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。 *何よりも自宅で「机に向かう」習慣をつけることを重視する。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。 3. 朝礼前の5分を手帳タイム=Dタイムとして、手帳に記入しながら、その日やその週の見通しを立てるように声をかけた。また2学期には、手帳アンケートを実施し、使用実態や活用度を調査、フィードバックするなどして、手帳の活用をしばしば訴えた。 4. 従来行われていた、考査前に学習範囲表を配布することはせず、各自で手帳に記入することを奨励した。 5. 各考査後に成績不振の生徒に対して補い、補習を実施。また、希望者対象の学習講座も実施した。 6. 全員受験の実力テストと希望者による実力テストを学期ごとに実施した。 7. 百人一首大会や聖歌コンクール・レシテーションコンテストをおこない、クラスや学年全体の協調をはかった。	A	*手帳の提出等はせず、生徒がそれぞれ工夫しながら、手帳に愛着を持つように教師は、励ますことに徹した。多くの生徒が手帳を活用していたと思われる。またアンケート結果からも、手帳の活用度が高いこともわかる。どうしても後半、手帳をうまく利用できない、常備しない生徒も目立ち始めたが、その生徒たちが手帳をうまく使えるよう、声をかけたりすることが必要。 *補い生徒の補習は学年一体となって取り組んだ。英国数は補いの授業を実施。その他科目の未到達の生徒には学年主任面談を実施した。 *百人一首やレシテーション・聖歌コンクールも非常に良く頑張っており、良い企画である。
	総合学習	中学1年生では以下の項目に取り組んだ。 1. マナー 2. 心のマナー	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. とかくコミュニケーション上の問題、特に友人間のトラブルが多い時期であるからこそ、他者の理解、多様性の尊重を意識しながら、上手に自己主張を行えるようにする。	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを、プリントを使って学習する。 2. 他者を尊重することが、結局は自分も尊重されること、またそのような社会を創造できる市民として生きていけるよう、中1は中1なりに考え実践する。 3. カウンセラーの梅野先生の「レジリエンス講座」を学期に1回実施。クラスでは誰もが安心して過ごせるよう、「クラスの安心ルール」を策定した。誰もが不安	A	*小笠原礼法のマナー講習は、生徒にとっては良い企画である。内容は厳選されてきており、計7回の講習であったが充実していたようだ。 *友人間の小さなトラブルをマイナスにとらえるだけでなく、それを乗り越えることで、他者の多様なあり方にも寛容になれるように語りかける機会が多く持てた。それでも友人間のトラブルは少ないわけではない。臨機応変に教員

				なく学校で過ごすことができ、学習や課外活動に集中できる環境を作る。		が対応することは当然である。
	行事	1. オリエンテーション キャンプ 2. 夏のキャンプ 3. 春の遠足 秋の校外学習 演劇鑑賞	1. 松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。 2. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 3. 自然に親しみ、友人と交流を深める。校外学習では理科的視点と歴史的視点を土台に企画した。	1. 松蔭という新しい環境に慣れるための第一歩。各種プログラムを用意し、多くの先生方の協力の下で実施する。 2. 集団での過ごし方を意識する。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうようにする。生活パターンや文化の違う人がいることも理解する。 3. 春の遠足では摩耶山に登り、自然の中で友人とふれあう機会を持った。秋の校外学習：「姫路セントラルパーク 動物サファリ」「姫路城」 4. ピッコロわくわくステージ実施	A	*オリエンテーションキャンプでは学年目標の趣旨を説明。色々な他者の存在を認めることが、結局自分の存在を認めてもらえることにつながることを伝えようとした。ハチ高原での夏キャンプは、エクササイズを入れて各班で協力してハチ高原の魅力を紹介した。

中2 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「センス・オブ・ワンダー～内なる声を聴こう～」	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年日より等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。	B	さまざまな場面で、もう少し、主旨を理解させ、浸透できるように啓発した方が良い。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。 生徒指導ガイドラインを作成する。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、生徒としっかりと関わる。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 学校と保護者の信頼関係を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。 6. 週に1回の学年会議(生徒情報)を行い、日々の生活面の情報交換を実施する。	B	毎週の学年会議で、生徒情報の共有ができたことは、非常に良かった。指導事項に対しても、協力して取り組めた。保護者との協力関係も電話・メールにおいて、ある程度築かれている。
	学習指導	中学2年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学2年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。 自主的な学習ができるように促していく。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。3教科の学習と読書を組み合わせ、授業や試験に合わせて計画的に行う。 2. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対しての「補い」を実施する。 3. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。 4. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施し、解説も行う。 5. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出す。 6. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行う。 7. 英語教室・英検対策講座など、自主的に興味を持って学べる環境を整える。	B	学びのときは、計画的に取り組まれた。国語・数学・英語・読書を基本形に、定期考査対策・英検漢検対策・聖歌コンクールの練習等であった。 補いに関しても、各教科熱心に指導していただいた。英語教室も多くの生徒が受講した。 希望者実力に関しては、受験者数の少ないことが残念である。 百人一首大会やレシテーションコンテスト等の行事はしっかり取り組めた。
総合学習	いのちの学習 キャリアの学習	中学3年間の「社会とつながろう」というテーマの下、中学2年生では「社会で生きよう～いのち～」というテーマで、すべての生命がかけがえないものであることを認識させることや、今後の自分自身の生き方を具体的に考えることを目標に、「いのち」の学習に取り組ませた。同時に、「いのち」の学習がキャリア学習につながっていくよう構成した。	1. 1学期は「いのちを授かって」をテーマに、自分自身の生き立ちや、これまで人生を振り返ることにより、「いのち」について考えさせた。 2. 2学期は「生きるということ」をテーマに、老いることや病を抱えること、障がいを持つこと、死を迎えることなどについて知ることを通じて、生きることの意味について考えさせた。 3. 3学期は「どのように生きるか」をテーマに、生徒自身が、これからどのように生きていくかを考えさせた。 4. NPO法人による「赤ちゃん先生、ようこそ！」というプログラムを実施し、赤ちゃんに触れ、ママ講師の話を聞くことを通じて、生命の大切さや人間の成長を感じさせ、今後の学校生活やその後の生き方について考えさせた。 5. 映画やNHKの番組などを多く視聴させ、内容の要約や感想などを、毎回ワークシートに記入させた。	A	どのような境遇の生徒にとっても有効な内容にするため、やや慎重になりすぎたきらいがあったが、結果として、生徒は真摯に各テーマに向き合った。 生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するため、動画等の視聴後には必ずワークシートを課した。漠然とした感想文にならないよう、内容の要約や、疑問に思う点、初めて知った点など、記入する項目を具体的なものにした結果、3学期には一定の水準の文章が書ける生徒も増えた。 生徒部主催の性教育の授業(ピアカウンセリング)も3学期のプログラムに組み込み、LGBT(性的少数者)などについても考えさせた。	

	学年行事	1. 春の遠足 2. 海洋キャンプ 3. 秋の校外学習 4. 聖歌コンクール 5. 有志キャンプ	生徒の目標 1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2. 協調性を育て、海洋スポーツの楽しさ、自然のすばらしさを知る。 3. 立杭焼の伝統工芸と篠山の歴史・文化に接する。 4. クラスで協力し、聖歌を合唱する。 5. 興味ある事象を深めていく。	1. 新神戸～市ヶ原～再度公園（修法ヶ原）～諏訪神社のコースをゆっくりと散策する。 2. 3種類の海洋スポーツに親しむ。生活班ごとの食事や清掃の共同作業に取り組む。 3. 丹波焼「やまの」さんの指導のもと、立杭焼に取り組む。その後篠山に移動し、歴史・文化に触れる。 4. 課題曲とクラスで決定した自由曲の2曲を合唱する。 5. 冬休みに希望者対象のカエルの解剖実習と天体観測を実施する。	A	各行事とも欠席者も少なく、熱心に活発に活動した。希望者対象のプログラムも非常に好評であった。
--	------	--	--	---	---	--

中3 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学 3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「愛」	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。 2. 身近な友人と過ごす際にはもちろんのこと、学年の仲間と共に学校生活を送っていることを意識させ、目標を礎にした問題解決を促す。	A	1. 宿泊行事のしおりに掲載するなど、親しむ機会を設けてきた。平和学習のまとめに引用、PTAニュースの卒業のページに掲載など、生徒、保護者共に、3年目となるこの目標が根付いたと感じられる。今後も、継続して取り組んでいきたい。 2. 日々の学校生活の中で、思いやりのある言動が見られる点もあるが、まだ十分とは言えないこともあるため、根付いた目標がしっかりと実践され実を結ぶまで、小さな機会をたくさん見つけて、根気強く生徒に関わっていきたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が一丸となって取り組む。 2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように基準の確認を怠らない。 5. 学校と保護者、保護者間の連携を深める。 気になることは連絡し合える体制を作る。	B	1. 行事運営、生活指導、風紀指導、学習指導方針など常に共有して、実行した。今後も継続していきたい。 2. 生徒の様子に気を配り、必要な声かけをする、面談を行うなどした。継続していきたい。 3. クラス、授業、クラブ、行事など様々な場面での生徒の情報を積極的に集めて共有した。データ化するなど、振り返りがしやすいようにまとめる工夫をしたい。 4. 各クラスの状況に合わせ、担任の方針を尊重しつつ、着地点に大きな違いが出ないように指導を続けた。今後も、軸がぶれないように注意を払いたい。特に、遅刻指導を保護者も交えて、個人的に文書で確認するなど工夫をした。成果が出るまで、今後も継続していきたい。 5. 努力を続けている。クラス懇親会、学年懇親会など実施された。ますます連携を深めるために、細やかなやり取りを続けたい。
	学習指導	中学3年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学3年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。	4. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。5教科の学習を授業や試験に合わせて計画的に行う。 5. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対する「補い」を実施する。	B	1. 中1から継続して設定している「学びのとき」は、落ち着いて授業に入るためにも有効であった。今年度は、「天声人語」の書き写しを導入した。定期考査前に、関連する内容を学習する際には、より集中して取り組んでいた。生徒が、飽きることなく取り組めるよう短い時間ではあるが、小さな工夫をたくさん行って継続していきたい。 2. 定期考査や実力考査前には範囲表を配布し、学習計画を促した。講

			<p>6. 放課後や長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。</p> <p>7. 全員受験、希望者受験の実力考査を学期に1回ずつ実施する。</p> <p>8. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出す。</p> <p>6. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行い、生徒一人一人のモチベーションや持続力が高まるよう働きかける。</p> <p>7. Web を利用した課題を設定した。</p>	<p>義を受ける形式だけではなく、追試も行った。受け身な学習スタイルばかりでは家庭学習の定着が期待できず、簡単に組み立てる課題を持ち帰らせるなど、様々な方法で行った。また、定期考査後に学ぶ機会を与えるのではなく、定期考査前に学習を促したいと考え、定期考査前の放課後学習教室も開設した。毎回、多くの生徒が参加した。最後の定期考査では、自学自習へ移行するため、あえて設置しない策を取り、自習室の利用を促すなどした。日常の授業を大切にすることを改めて心がけさせたい。</p> <p>3. 基礎的な内容を扱う講座と発展的な内容を扱う講座を英教団中心に開設した。ネイティブ教員による英語活動も取り入れた。他に、外部講師による英語教室を開設した。また、夏休みの宿題として、学年全員に英語絵日記の課題を与え、英作文にチャレンジする機会とした。日常的には、英語特別クラスでは英語で日誌を書くなどした。</p> <p>4. 継続して受験する生徒がいるなど、学力を測る機会として有効に活用された。希望者受験ではなく、全員受験にした方が良くと保護者からの要望もあったので、今後、検討すると良いと思われる。</p> <p>5. 百人一首大会を中3で実施することができ、過去の実績からクイーン戦も同時に行うことができた。大いに盛り上がり、実施して良かった。レシテーションコンテストも、英語特別クラスができたことにより新たな挑戦者を排出することになり、良い体験の機会となった。なお、英語特別クラスでは、英語のエッセイに取り組み、優秀者がレシテーションコンテストで発表した。この取り組みは英検での効果も見られた。学年行事は、学年作りに不可欠なので、今後も機会を見つけて実行していきたい。</p> <p>6. 1学期と3学期に生徒面談、夏休みに保護者面談を実施した。特に、3学期の生徒面談は、高校生になる前の準備として、生活面、学習面ともに取り組むべき課題の確認の場となり有効であった。継続していきたい。</p> <p>7. 英語特別クラスでは、オンライン英会話を実施し、実践的な学びの機会とした。今後も継続していきたい。また、web を利用し、職業調べの際の適性診断や、実力考査の振り返り学習に取り組んだ。今後も、様々な機会を利用して、活用していくことが望ましいと考える。</p>
--	--	--	---	---

総合学習	<p>「平和」についての学習</p> <p>「進路」についての学習</p>	<p>映画鑑賞、被爆者講演会、修学旅行で訪れる長崎での碑めぐりや資料館見学などを通して、「平和」について考えさせる。</p> <p>高校生活や学習について考えさせることで、各自の「進路」についての意識を向上させる。</p>	<p>1. 講演会、体験学習などを十分に活用し、理解を深めさせる。 映画鑑賞、被爆者講演会、九州修学旅行（長崎での被爆体験講演会、めぐり、資料館見学）。</p> <p>2. 感想文やレポート作成、発表などの課題に意欲的に取り組めるよう促す。 グループでの壁新聞作成と発表を行う。 「平和」学習のまとめとして、全員に「平和への提言」を作成させ、クラス代表による発表会を実施する。</p> <p>1. 夏休みの宿題として、職業について調べる。</p> <p>2. 高3の先輩から進路について話を聞き、高校生になるための心構えを持つ。</p>	A	<p>1. 興味関心を持ちやすい題材を用いることや、体験した方のお話を伺うことは、総合学習の目標の達成のためにも、生徒達の人間的な成長のためにも、大変有効であった。また、クラスの始まるの時期に、グループ活動を行ったことは、人間関係の形成に役立った。 参考：映画「この世界の片隅に」 映画「夕風の街 桜の国」 講演 被爆者体験談(広島) 講演 被爆者体験談(長崎) 講演 平和について</p> <p>2. 感想文やレポートの作成、発表は、考えを深め、整理するために役立ち、大変良い経験である。継続していきたい。</p> <p>1. 職業に関する冊子やwebを利用して、適性診断をしたり、興味関心のある職業と必要な学問分野、高校での必須科目などを調べたりした。冊子の配布は、家庭で保護者と将来について話題にできたと好評であった。</p> <p>2. 高3の先輩による「進路ライブ」では、リアルな体験談を聞くことができ、良い刺激を受けることができた。</p>
学年行事	<p>1. 春の遠足</p> <p>2. 校外学習</p> <p>3. 九州への修学旅行</p> <p>4. コンクール参加</p>	<p>生徒の目標</p> <p>1. 自然のすばらしさを学び、友人関係を深める。 2. 映画を通して、戦争時の日常の暮らしを知り、同世代の主人公の生き方を通して、平和への自分の考えや思いを持つ。</p> <p>3. 平和について学び、九州の自然や風土、歴史に触れる。 友人関係を深める。</p> <p>4. 様々なコンクールに参加し、教科学習以外の積極的な学びの場を得る。</p>	<p>1. 六甲山に登り、神戸市立森林植物園で昼食・休憩をとる。</p> <p>2. しっかりと集中して鑑賞するために、映画館での鑑賞とした。</p> <p>3. 長崎で平和について学び、タクシーによる長崎市内班別研修、雲仙普賢岳災害記念館見学、有田焼の絵付け体験等を行う。また、ハウステンボスを観光し、太宰府天満宮に参拝する。</p> <p>4. 校内読書運動の学年の取り組みで、新潮社主催の「ワタシの一行エッセイ」というエッセイコンクールに参加した。他にも、個人の参加を促し、英語暗唱、図書活動、韓国語スキットなど個人的に出場した生徒がいる。</p>	A	<p>1. 谷上駅集合解散という方法であったが、良く協力して行動できた。生徒の実情にあったコース設定で、好評であった。</p> <p>2. 本校中3生徒のみという特別な環境で、落ち着いて鑑賞することができ、多くの生徒の心に残る良い学習の機会となった。上映中の映画であったために映画館での鑑賞となったが、機会があれば、また実行したい。主人公の女性に共感しやすく、平和の大切さが素直に生徒の心に届き、作品の力を感じた。今後も、この視点での題材選びを心がけたい。</p> <p>3. 良い旅行であった。事前学習を工夫し、生徒に興味関心を持たせうえで、旅行を迎えたことが良かった。しかし2学期には、体育祭、バザーもあり、忙しい学期のため、教科学習を落ち着いて取り組むことが難しい。学校生活のバランスを取る必要性を感じるため、取り組み方、行事の実施に改善が必要な点もある。</p> <p>4. 中2では学年全員で、作文コンクールに参加し、今年度はエッセイコンクールへ参加した。個人応募では、なかなか参加へつながらないため、学年での取り組みとした。今後も、生徒の状況に合わせて、全員で取り組む機会と、個人で参加する機会を合わせて持つようにしていきたい。</p>

高1 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校	学年の目標	学年の目標の理解と実践	<p>「恕」 「志学・志向・タリタクム」</p> <p>「論語」や「聖書」にある言葉を借用して、「思いやりを持って過ごそう。」「学ぼう。自分で目標を設定し、その</p>	<p>1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、面談、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。</p> <p>2. 友人関係上の問題が生じ、生徒たちだけで解決できない場合、担任を中心とした学年の教員も入って、解決を目指す</p>	1 B 2 B 3 B 4 C	<p>生徒たちの思いやりのある言動は、中学時代よりも増えてきた。今後も見守りを続け、必要な場合にはこれまで同様の指導を行いたい。</p> <p>生徒たちが学習その他の活動に積極的に取り組むために必</p>

			<p>目標を目指して行動しよう。起きよう、目覚めよう、歩き始めよう！」と呼びかけ続け、実践を促す。</p>	<p>す。その際にも、思いやりや言葉の選び方の大切さについて考えさせる。</p> <p>3.目標達成に向けて行動するためには、「基本的な良い生活習慣の確立」が必須。具体的な生活管理の方法として、進路指導部から提案された「起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻の三点を固定しよう」ということを、折に触れて思い出させ、実行を促す。また今年度も、スケジュール帳の活用を促す。</p> <p>4.宿題や小テスト対策に熱心に取り組ませる。日常的に、予習、復習をさせる。発展的な自主学習にも取り組ませる。</p>		<p>要な、対人関係や精神面・身体面の安定という基盤を築くためにも、「基本的な良い生活習慣の確立」をと呼びかけ続けた。今後も呼びかけを継続したい。人間的な深まりを感じさせる生徒たちだが、「基本的な良い生活習慣」のうちの「学習習慣」は、まだまだ確立させられたとは言い難い。対策等については、「学習指導」の欄に。</p>
1年	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<p>年度当初に、教員間で指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。それらを、年間を通して実践する。</p>	<p>1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が一丸となって取り組む。</p> <p>2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。</p> <p>3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。</p> <p>4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。</p> <p>5. 学校と保護者、保護者間の連携を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。</p>	1~3A 4B 5B	<p>1~3について。「学年の教員全員が一丸となって」という目標は、達せられた。</p> <p>4について。基準の確認は怠らなかったが、実際の風紀面等の指導で、クラスによって温度差が生じる場合があった。改めたい。</p> <p>5について。努力を続けている。連携をますます深めるために、密なやり取りを続けたい。</p>
	学習指導	高校1年生としての学力の定着と学習意欲の向上	<p>生徒たちが高校1年で必要な学力を身につけられるようにする。学習意欲が継続し、向上するよう、促す。</p>	<p>1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。</p> <p>2. スケジュール帳の活用を促し、宿題や小テスト対策、予習、復習などの学習習慣を確立させる。</p> <p>3. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対しての「補い」を実施する。</p> <p>4. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。</p> <p>5. 全員受験の実力考査を学期に1回ずつ実施し、解説も行う。スタディサポートを1学期、2学期に1回ずつ行い、生徒各自の学習態度について自覚させる。</p> <p>6. 英検・TOEIC、漢検という目標に向かって、日常的、継続的な学習に取り組ませる。</p> <p>7. 「大学入試問題チャレンジ」と称する取り組みに挑ませる。基本的な過去の大学入試問題を解いて自分の実力を把握させ、学習意欲を引き出す。</p> <p>8. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行い、生徒一人一人のモチベーションや持続力が高まるよう、働きかける。</p>	1B2 C 3~7B 8B	<p>中1時から継続して設定している「学びのとき」は、落ち着いた授業に入るためにも有効であった。5分間ではあるが、集中して取り組む生徒も増えた。</p> <p>生徒たちは、学習面において、中学時代よりずっと積極的になった。しかし、自宅学習の時間は依然として不足している。生徒たちの、質の高い自主的な学習の時間をもっと増やすために、工夫しなければならない。保護者の方々のご協力ももっと得たい。「毎日こつこつ勉強する生徒、勉強することが楽しいと思える生徒、与えられるものだけで満足せず、自主的な学習に取り組む生徒を、育てる」という大きな目標を掲げて、努力、工夫を続けたいと思う。</p>
	総合学習	「進路」についての学習 「環境」についての学習	<p>生徒の目標 進路・進学の情報収集し、自らの将来について考える。 環境問題に興味を持ち、その解決方法について考え、話し合う。</p>	<p>1. 講演会、体験学習などを十分に活用し、理解させる。 「進路」進路シミュレーション、学部紹介、教育講演会、小論文の書き方講演会、働いている方のお話を聞く会。 「環境」温暖化についての講演会、食品ロスについての講演会、環境活動報告、Blue Earth 塾。</p> <p>2. 感想文や作文、レポート作成、発表などの課題に意欲的に取り組めるよう、促す。</p>	B	<p>生徒たちは高校生になったので、進路について考えることは必要だという実感がわいてきたようである。自分に必要な情報を、自分で収集する積極性を培いたい。</p> <p>環境については、興味、関心を持つことはできた。次の目標は、「自分のこととして考え、行動する」である。</p>
	学年行事	1.春の遠足 2.秋の校外学習	<p>生徒の目標 1.六甲山の自然に親しみ、友人関係を深める。 2.奈良を散策し、世界遺産に触れる。友人関係を深める。</p>	<p>生徒の実践内容 1. 友人とともに六甲山に登り、カンツリーハウスで過ごす。 2. 友人とともに古都奈良を散策し、世界遺産をめぐる。</p>	B	<p>生徒たちはどちらも楽しんだ。春の遠足について。山中で体調不良の生徒が出た場合の対処について、考えておく必要がある。</p> <p>秋の校外学習について。事前学習をもっと行うための時間的な余裕がほしい。</p> <p>生徒たちのマナーについて。日常的な指導をもっと積極的に行う必要がある。</p>

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	1. 「よく学び、よく生きよ」を常に心がけるようさせる。 2. 高2の目標として、「夢を目標に変えてチャレンジを続けよう」という目標も設定した。	1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2. 高校2年生として、自覚を持ち、なすべきことをわからせいろんな案内から、すぐに行動に移すように促した。	B	・それなりの意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認を行い、各クラス共通の認識をもって対応をする。 2. 機会をみつけて、保護者との連絡を密に取りあう。	1. 常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。	B	・職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にするとともに、学期ごとに時間を持ち、共通認識を持って生徒にあたるよう心がけた。
	学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	1. 授業を大切にすることを徹底させる。 2. 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。 2. 4月から年間18回の校内予備校を実施。(現代文・英語) 3. 朝礼前の「朝学」で、各自の課題に取り組んだ。 コースIでは独自に「数学」の取り組みも行った。 4. 大学のオープンキャンパスや入試別説明会を実施。 5. 長期休暇中に進学補習を実施。 6. 希望者対象に「夢ナビ」ツアーを実施。 7. 8時から8時30分まで「0時間目」(英語・国語・数学)を実施。 8. 放課後にも社会、化学などの授業や補講、補習を実施。 9. 実力考査の追加科目や希望者マーク模試を実施。 10. 実力養成や各志望校への意識動機付けを積極的に実施。	A	・校内予備校の出欠を常に把握し、保護者へも出欠の確認を行った。 ・早朝や放課後、長期休暇を使って学習をするための機会を増やすことができた。 ・入試に向けて、学習に取り組む意識を高めさせ、一人一人が具体的な目標を持ち始めた。
	総合学習	1. 環境(震災)学習 2. 修学旅行(東北) 3. 進路学習	1. 「震災」の教訓を生かし、自然環境や社会環境との関わりを視点を据えた防災教育を推進することによって、共生社会における人間としての在り方・生き方を考えさせる。 2. 10月の修学旅行について積極的に学び準備する。 3. 入試に向けた知識や情報を身につけさせる。	1. 「震災」をテーマに学習をすすめた。講演会や修学旅行中での震災学習などで話を聴き、またそこから感じたことなどをまとめる時間も持った。旅行後にビデオレターを作成し東北との「繋がり」を持ち続けるよう活動した。 2. 夏休みに各自で、東北の郷土に関する学習と震災に関するレポートを作成した。 3. 修学旅行後に各自でホワイトブック(個人の旅行アルバム)を作成し、優秀作を展示した。 4. 「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報を伝えられるようにした。 5. 3学期に志望理由書対策講座を実施。 6. 3学期に校内入試別説明会を3回実施。 ①センター・一般入試 ②AO・公募・指定校推薦 ③松蔭特薦	A	・震災学習のプログラムは、よく順序を練ったものとなった。生徒たちの思考を促す効果があったと思われる。生徒は真面目に、熱心に取り組んでいた。 ・進路学習と両方に取り組むには時間数が不足している感がある。 ・ホワイトブックの展示とともに投票を行い、優秀者3名を表彰した。
	学年行事	遠足(須磨山上遊園)	須磨山上遊園に行き、自然にふれ、体力をつける。	JR 須磨駅に集合し、須磨山上遊園を目指して歩いた。山上遊園での時間が余ったので、若干早いが下山して解散した。	B	・歩く距離・行程の厳しさなどは適当であったが、目的地の選定(山上での時間があまる)には検討が必要だと思われる。

高3 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
----	----	------	------	------	----	---------

高 校 3 年	学年目標	学年目標の徹底	「人にやさしく」を学年目標とする。	1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示した。 2. 学年集会等で、この言葉の意味を伝え、それぞれが目標を達成できるよう促した。	A	定着したと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認を行い、各クラス共通の認識をもって対応をする。 2. 機会をみつけて、保護者との連絡を密に取りあう。	1. 学期に1度の「クラス報告会」で、常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。	A	職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にするとともに、学期に1度クラス報告会の時間を持ち、共通認識を持って生徒にあたるよう心がけた。
	学習指導	学力の向上	1. 授業を大切にすることを徹底させる。 2. 大学入試に対応できる力をつけるためのプログラムを放課後などを使って、個々の進路に応じて活用できるようにする。	1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。 2. 4月から年間20回の校内予備校を実施。(現代文・英語) 3. 朝礼前の「学びのとき」で、各自の課題に取り組んだ。 4. 放課後や長期休暇中に進学講座を実施。 5. 実力考査の追加科目や希望者マーク模試を実施。 6. 授業のない3学期に進学講習を実施した。 7. 進路決定者の一部の生徒にセンター試験問題を受験させた。	B	進学講座に関しては学年団以外の教師にも協力を求め、多くの講座を実施することができた。長期的な計画を考える必要がある。
	進路指導	目標の設定、学力の向上と進路実現	自分の適性を知り、進路目標を定めて準備し努力させる。	1. 進路説明会 4月には、年間のスケジュールを保護者と生徒に伝え、6月・9月にも実施した。また、9月・12月にはセンター試験説明会を実施した。 2. 進路調査 4月・7月・9月に3回実施。その後、複数回個人面談を実施し、それぞれの希望進路や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。夏休みには保護者との三者面談を実施した。 3. 実力考査 4月・5月・9月の3回実施。国英以外の試験も実施。7月・10月には希望者対象の実力考査を実施。 4. 校内オープンキャンパス 高校内で、5月に松蔭大学の学科説明会と6月に外部大学・短大・専門学校の入試説明会を実施。また、看護医療系進学ガイダンスも実施。 5. 小論文指導 入試に小論文が必要な生徒の調査。学年団で分担を決め指導した。5月には希望者対象の小論文模試を実施した。 6. 指定校推薦決定者への指導 10月の希望者対象実力考査の受験および本人の希望にあわせた資格検定の受験を必須とし、定期的に学習の進捗状況・学習物を提出させた。	B	3年間を見通したより長期的な受験指導をする必要がある。
	総合学習	主体的に考え判断し伝える力を養う	1. 文章の書き方のルールを知り、自分考えを他者に伝える。 2. 様々な問題に対して、自分の考えを	1. 1学期に論文の書き方講座を実施。 2. 過去に学んだ5つのテーマのふり返り。 3. 「平和」「震災」に関わる講演会を実施。	A	これまでのテーマに沿った講演を聴き、新たな一面を感じることが出来た。今の自分が関心のある内容で、人に伝える意見文を熱心に取り組んでいた。

		まとめ、他者の意見を尊重する。	4. 学年とクラスを小グループに分け、自分の考えを他の人とシェアする作業を行う。 5. 意見文を完成させ、文集を作成。 6. 3学期の総合学習全体会で優秀作品を発表。		
学年行事	遠足（ハーブ園）	自然に触れ、友人との親交を深めるように指導する。	新神戸で集合し、ハーブ園までの散策を行った。天候もよく、楽しむことが出来た。	B	当日、途中で体調不良の生徒が2名。携帯電話が繋がりにくい所があり、連絡が困難だった。
3学期プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・進学講習 ・Blue Earth Project 応援プログラム ・Blue Earth Project 	各自の希望に合わせたプログラムに参加し、目標の達成を目指す。	1. 進路決定者は「Blue Earth Project」に参加するか、「Blue Earth Project 応援プログラム」に参加するかを選択。 2. 受験継続者はセンター試験をはじめ、一般入試に向けて各自の進路に合わせた進学講習を受講。 3. 進路決定者の中から希望者をつのり、「女子高生が社会を変える」をキャッチフレーズに、環境問題の活動に取り組む Blue Earth Project を行った。今年のテーマは、「海の生物多様性を次世代に残そう！」。	A	3学期プログラムには、多くの生徒が真面目に取り組んでいた。進学講習では、各自の進路に向けて、前向きな学習姿勢が見られた。Blue Earth Project では、47人のメンバーが環境問題へのさまざまな取り組みを企画・実行し、大きな成果を上げた。

2017年度 教務部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語・数学教室、定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れた。	B	定期考査後の補い等、授業以外でも、基礎学力定着のためのさまざまな取組が充実している。引き続き授業改善に努めると共に、授業についていけない生徒への学力指導について新たに検討していく。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	英語・数学などでグレード別クラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。土曜日には、中学1年生の英会話教室・英検対策講座・高校2、3年生対象校内予備校を実施した。なお、英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座を必修とした。夏季休暇中に夏期講習期間を設定した。学年によっては朝の0時間目講座や冬期・春期講習も開講した。	A	長期休暇中の講習、日常的な放課後の講習、土曜日のECC・校内予備校等の取組が定着してきた。2018年度より6日制となることもあり、今後、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施した。また、定期考査以外での評価も積極的に行うことをはたらきかけようとした。さらに学習意欲の向上をはかるため、スタディー・サポートを積極的に活用したり、英語検定やTOEIC、漢字検定などを実施した。	B	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、講習やその他の方法による対応を具体的に進めていく必要がある。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。高2修学旅行、中3修学旅行など、校外でのさまざまな体験、事前学習等の機会を設けた。アクティブ・ラーニング等、能動的な学びについての研究を進めながら、具体的な実践に取り入れてもらうよう促した。	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。アクティブ・ラーニングについては引き続き研究を進めながら、具体的実践を少しずつ促進していく。
	研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	職員室の中央掲示板に外部で行われている授業研修を掲示し、教員に各自で学外の研修会に積極的に参加するように促した。	B	アクティブ・ラーニングを実践した研究授業やICT機器を利用した授業研修を定期的に設定する。外部研修会にも積極的に参加することをより奨励する。

	国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせる。	前年度末から1学期にかけて、セント・ピートーズスクールと春期短期交換留学を行い、2名の生徒を3週間ずつ交換した。ホームステイや授業参加を行った。4月にはセント・ピートーズスクールからもう1グループ来校し、ホームステイを行った。1学期にはオハイオ州立大学も来校し、授業で交流した。これと並行し、セント・ピートーズスクール、信明高校、聖明女子中学校への夏の派遣に向けて事前学習を行い、言葉や歴史を勉強した。夏休みには聖明女子中学校が来校し、中学生同士で交流した。セント・ピートーズスクール、信明高校、聖明女子中学校への生徒派遣も行った。2学期、3学期に11回、ミカエル国際学校土曜学校において、英語アシスタントを行った。3学期には信明高校が来校し、ホームステイや授業交流を通して親交を深めた。	B	1学期は韓国、富元中学校、聖明女子中学校の来校を予定している。夏休みのセント・ピートーズスクール、信明高校、聖明女子中学校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言葉や歴史の理解を深める。3学期には信明高校が来校し、ホームステイ等を通して交流を深める。留学団体を通しての留学生受け入れ、セント・ピートーズスクールとの交換留学、ミカエル国際学校の土曜学校におけるアシスタント活動も引き続き行う。
	芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2017年は中国伝統芸術(京劇など)の鑑賞会を行った。プロシード・アーツの仲介のもと、中国文化芸術団に上演して頂いた。圧巻の演技は人間の身体の可能性を感じさせ、生徒達も楽しむことができた。	A	来年度は音楽がテーマの年となり、室内管弦楽の鑑賞を企画している。今後、生徒数減少のため、全学年が講堂もふくめて利用する施設の変更も考えていかななくてはならない。
	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、学校行事として、体育祭・球技大会(年3回)・春の遠足(登山)・中2海洋キャンプ・中3九州修学旅行・冬休みスキーキャンプ・中1キャンプ・高2東北修学旅行等を実施した。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定した。	B	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。ただし、2018年度より6日制となることもあり、年間の各種行事のバランスを検討することが、今後必要である。

生徒部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を積極的に行う。	B	校内生活において、服装・頭髪は全体的にきちんとする生徒が増えてきた。継続して指導する中で校外でもしっかりとさせたい。
		登下校のマナー	・交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	関係機関と連携し、登下校指導の実施、及び補導活動(列車補導も含む)を定期的実施する。 教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	年3回の街頭補導、日常の指導の中で寄り道する生徒は減ってきている。ただ、乗車マナーについては不十分な点もあるのでさらに細かい指導を行いたい。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品(携帯電話や財布)は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	A	各担任、クラブ顧問の指導を継続して行う。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、スクールメディアを通じ、随時指導する。	A	「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に対する社会意識を定着させるため今後も継続していく。
美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除に拭き掃除を取り入れる。(机・イス・窓のさん・棚・傘立て・ロッカーの上・黒板のみぞ・黒板クリーナー等) ・文化祭、体育祭、バザーのとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	B	委員が校内美化に関して、向上心をもって取り組んだ。体育祭後の教室前ぞうきん待機を徹底した。また球技大会後に、廊下・階段などの共有部分の掃除分担を実施した。拭き掃除は今後の課題である。	
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立	B	ゴミの減分別、リサイクル活動は定着しており、日常的に行われている。ゴミの減量化に関しては、今後も呼びかけていきたい。

生徒部				<p>てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。美化委員はリサイクル処理を、火曜日と金曜日に行う。 		
	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	<p>あいさつ運動の継続。</p> <p>校外清掃活動の回数の増加。</p> <p>暴走族追放キャンペーンやあしなが奨学募金など外部のボランティア活動への積極的な参加。</p>	A	継続してあいさつ運動をしていく。外部のキャンペーン等にも積極的に参加していく。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	<p>体育祭運営をよりスムーズに行う。</p> <p>競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。</p> <p>文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。</p> <p>その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。</p>	B	<p>体育祭では、新競技を取り入れた。今後も安全かつ盛り上がる競技を検討していく。</p> <p>文化祭では、生徒会と各部活の連携が向上するよう努める。</p>
各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	<p>評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。</p> <p>ゴミの分別を確実にやる。</p> <p>生徒会関係冊子の充実に努める。</p>	B	事前の連絡等が遅れる場合があるので、教員生徒両方にしっかりと連絡できる工夫をする。		
生徒部	安全教育	防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちでする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする(地震発生を想定した訓練を含める)。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	くりかえし訓練することによって、有事の場合の行動確認と心構えをつくる。
		校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	日頃から防犯意識を高めるようにする。
		全校生徒(特に自転車通学者)への安全の意識を高める	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、交通安全協会よりDVDを借りておこなう。登下校時の交通安全意識を高める。	A	加害者・被害者にならないように啓発をつづける。
		応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	緊急時に各自が役割を果たし円滑な救急搬送ができるようにしていく。
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。	性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の6年間に年1回は性教育を実施する。中学1年・2年・3年生、高校2年生では性教育講演会をおこなう。また、中学2年生、高校1年・3年生の保健の授業や中学2年生の総合学習と連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。	A	中学2年生は思春期ピアカウンセリングを実施した。内容や実施方法などについて検討をしていく。

宗教部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当美を決めてもらった。 ・文化祭・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。 	A	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにしたい。
		オルガニスト当番	学校行事や式典のオルガニストを手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や式典が決定し次第、手配した。 ・できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようになった。 	B	オルガニストへの事前確認をを忘れていたことがあったので今後は注意する。
		オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・レッスン生を補充するため、オーディションを開催。2名を合格とした。 ・チャペルでのレッスン(基本、月1回)と聖ミカエル教会でのレッスン(基本、学期に2回)を行った。 ・チャペルで行ったクリスマス祝会で、 	A	チャペルのオルガンの調子が悪いため、レンタルしたオルガンを使ってレッスンをおこなった。足用鍵盤を使っての練習は、講堂のオルガンで行った。卒業記念品として、費用を積み立て中。

				レッスンの成果を発表した。		
	生徒の参加に関する指導等	礼拝においてオルガンレッスン生による奏楽の奉仕を定期的に行う。		・礼拝前にオルガンの奏楽をもって黙想を行い、心を落ち着けて礼拝を始めることができた。	B	25分着席は、まだ達成出来ていないが、早めに講堂へ集合し、静かに礼拝待つ体制はできてきたように思われる。
	日常礼拝の見直し	かつては毎朝行われていた日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。		部内で検討し、週3回の礼拝を「6日制小委員会」を経て全学教育構想委員会に提案したが、来年度は生徒への負担が大きいのということで、今後の検討課題ということになった。	C	2018年度の年間の流れを見た上で、2019年度以降、本来の礼拝の回数に近づけるよう、検討を続けて行く。
特別礼拝の実施	説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。		・それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていただいた。	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
	オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。		・参加が決まり次第、正式な依頼をおこなった。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。	A	連絡を密にとり、これからも連携して行っていきたい。
	式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り式次第・式文を作成した。		・各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	B	印刷作業など、部員で協力していけるようにしたい。
	クリスマス特別礼拝	燭火礼拝の形でとり行う。		・放課後の自由参加の「キャンドルサービス」を「クリスマス祝会」に変更し、そこで行っていたキャンドルサービスを特別礼拝でおこなった。 ・安全確保のため、消火用の水を担任の携帯してもらい、喘息等の不安がある生徒の座席位置も配慮し、事前注意も十分行った上で、中・高、別々に執り行った。	A	火の取り扱いについて、ほとんどの生徒は注意をはらい、事故なく安全に執り行うことが出来た。各担任も事故のないよう、生徒の様子を注意深く観察し、とり行った。
宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。		・にじ作業所のパンの販売などの企画を中高別日に設定し、混乱を軽減させ実施した。 ・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・聖ミカエル教会をはじめ外部の教会バザーの参加者も募り、行った。 ・近隣の教会の牧師を招いてクラス講話を行った。 ・クリスマス礼拝の日の放課後、チャペルにおいて「クリスマス祝会」を企画し、演奏系文化部のミニコンサートを行った。	A	今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。また、新たな企画についても立案・開拓していきたい。「クリスマス祝会」は、初のころみであったが、ハンドベル部、バイオリンアンサンブル部、フォークソング部、オルガンレッスン生が参加し、放送部中1の司会のもと行い、大変好評だった。今後も続けていきたい。
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。		朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災追悼記念礼拝を行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していきたい。新たな企画や改革も行いたい。
各奉仕活動の実施	特別養護老人ホームきしろ荘の訪問	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるようプログラムを考える。		・年2回の喫茶ボランティアを実施。 ・クリスマスの飾り付けは日程がとれず、実施できなかった。 ・一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。また、関係クラブにも参加協力を呼びかけ。	A	参加生徒は、積極的に活動にとり組んでいた。また茶道部の部員も喫茶ボランティアでお茶を点て、積極的に参加協力してくれた。
体験学習の実施	真生乳児院の育児体験	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。		・1・2学期、年2期(約10回)の育児体験を企画・実施した。 ・1学期に、来年度にむけ、試験的に午後実施する日も設けた。 ・一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。	A	参加生徒は積極的に活動していた。午後の実施については、午前実施にくらべて活動時間は短くなるが、可能であることが確認できた。今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。

人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。	・生徒向け人権映画として、中学生は、『パッチ・アダムス』、高校生は、『聲の形』を鑑賞し、ミニ感想文を書いてもらった。また事前の礼拝において映画の解説および関連したお話を係が行い準備した。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触であった。今後もさまざまな啓発を続けていきたい。
	啓發文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	・人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行した。	A	今後もよりよい形で、啓発活動を続けていきたい。
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	教職員人権研修会として2学期始業式前に、生野に人権の図書館である“セツパラム文庫”を創設した、藤井幸之助氏の講演会を行った。	A	今後もさまざまな形で、啓発活動を続けていきたい。
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面でを行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教に対する興味関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりを共感することができるようなプログラムを企画立案する。	・春休みに九州・大分熊本地震の被災地支援キャンプを企画し、高校生3名が参加した。 ・夏休みに神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画し、高校生6名が参加した。 ・教会の礼拝やバザーに参加した。 ・聖ミカエル教会でオルガンレッスンをを行った。	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動をより積極的にいき、生徒の参加を促していきたい。
啓發文書の発行	「青谷」編集発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・さまざまな方々に広く原稿依頼を行い、発刊した。 ・生徒の感想なども多く取り入れた。	A	概ねスムーズに原稿が集まった。宗教部の活動を広く教職員で共有できるように、今後も務めていきたい。
	「チャペルニュース」の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	活動写真などもおりませ、合計9回、発行した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていきたい
	「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・年間聖句および、月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計8回、教室掲示を行った。 ・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。	A	概ね月1回の発行ができた。今後も適切な聖句を選び、生徒に紹介していきたい。
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	・東日本大震災や九州・大分熊本地震の被災地支援、九州北部豪雨水害の被災地支援、福島県相馬市新地町の「磯山みかんの会」、磯山聖ミカエル教会の活動支援として献金をおこなった。 ・春休み、九州・大分熊本地震の被災地支援キャンプを行った。	A	必要とされる所に献金、人的支援をこれからも続けて行っていきたい。

総務部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックした。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。個人情報流出防止に細心の注意をした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。 住所録作成時のミスがないようにダブルチェック体制をとる。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数等を把握する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	教室の机等を定期的に点検して、早めに発注計画を立てる。 予備機の保管場所を周知する。
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることがら(部活動・補修など)を掌握する。 長期休暇中の教室利用を調整する。	通常利用一覧表と、月別の放課後教室利用一覧を掲示し、使用者に記入してもらった。 電子黒板が設置されている教室の空き状況一覧を作成し、授業で使用できるようにした。 長期休暇中については、事前に教室使用希望調査をおこない、調整した。	A	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。 長期休暇中の工事予定を勘案し、利用表を作成する。 校内イントラネットによる予約と重なりがでないようにする。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を掌握する。
	不良箇所の補修	施設管理職員・事務部との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の点検・見回りをする。	

情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時おこなう。 無線Lan環境を整備する。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 サーバーの更新をおこなった。 ICT小委員会と連携し、ICT関連の将来計画を検討した。 生徒用及び教職員用の iPad を購入した。	A	ネットワークのセキュリティ面で日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。 デジタル機器の増加、システムの変更に伴い、系の体制を検討していく。
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	B	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、補充遅れをなくするとともに、コストダウンを心がける。
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫するとともに、印刷ミスした紙等の再利用をおこなう。 その他、ゴミの削減に努める。
視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	電子黒板のメンテナンスをおこなった。 必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 不調の書画カメラを随時交換した。	A	視聴覚室の整頓を徹底する。 ICT機材の導入の将来計画を検討する。 講堂の音響関係のメンテナンス計画を立てる。
広報	ホームページ(学校の広報)	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 トップページのレイアウト等をリニューアルした。	A	少ない操作で見ることができるように改善する。 学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。
	ハンドブック(校内のルール・約束事の周知)	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。
	学校報(一年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHS テープを業者に依頼し、DVD で見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者と連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務部と連携をはかり、仕事を円滑に進めるよう努める。
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTA や同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。 食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示について、漏れがないように、チェック体制を整えた。	B	食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示漏れがないように、チェックに努める。 ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。
	緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。 生徒数に合わせたアカウント数のプランに変更した。	A	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。

進路指導 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路	進路	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	高校につながるように、中学段階での進路指導を継続した。	B	総合の時間の柔軟性のある使い方を検討する。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。
		進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。	A	大学入試制度改革に対応した指導のあり方を検討する。
			実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。	B	学校行事と模試日程の関係から、効果的な定点観測が難しい状況であり、他のアセスメントも併用することを検討する。
		実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えた。	A	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。	

導 部	導 部		大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会で説明した。また、新しい調査書の運用に備え、生徒が自らの学びを記録する「学びと成長の記録シート」の様式を決定した。	B	引き続き情報収集と情報提供に努めるとともに、各教科へ授業改善の指針を示す方法を検討する。
			受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1・高2でBlue Earth Project チームYの活動が本格化し、多くの生徒が校外外で活動した。	A	チームYの活動を継続するとともに、高3の活動にどのようにつなげるか検討が必要。
		キャリア教育の充実	社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気付きの機会を与える。	Blue Earth Project は今年も充実した内容を実施し、生徒達は前向きに活動した。Blue Earth Project は、特色ある教育活動として、全国に広がっている。	A	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、少しでも多くの教員に指導スキルの継承が重要。

入試広報室 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入 試 広 報 室	生徒 募集 関連 事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売。 低学年の方には、 図書館で在校生とのレクリエーションを企画した。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	B	3回すべてで制服試着コーナー。1回目、ブルーアース、英語教育の取り組み紹介。2回目、クラブ発表、3回目、クッキング体験を実施した。
		授業見学会	土曜日の学校説明会では授業見学ができないため、平日に授業見学を実施。	6月の平日、ご予約不要で実施。	B	ホームページなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を体験してもらう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	A	演劇部を中心に、内容を大きく変更。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場でもっと学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。
		日曜日の学校説明会	ふだんの学校説明会と違って、より身近な内容の説明会にする。	学年主任・クラス担任の教員、卒業生(大学生)、保護者の方から松蔭についてより身近な話を聞いていただいた。会場もアットホームな雰囲気を出すために図書館にした。	A	内容については、他の説明会よりも好評。
		外部説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に宝塚・加古川・西神南、三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	ご参加の人数は多くないが、実施場所を検討し、つづけていきたい。
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。 ご希望の方には施設見学も行った。 願書も受け付け。	B	ご参加の人数は多くないが、この時期に併願校をご検討する方もいらっしゃるのではつづけていきたい。
		学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対する的確な説明を心がけた。兵庫県の女子校による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。8月の私学フェスティバルには生徒も出演した。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で松蔭の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「神戸東地区4校合同説明会(神戸海星・甲南女子・親和)」を実施した。 9月に塾主催の帰国子女対象の海外での説明会に参加(バンコク、香港)	B	特に他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。

		ジュニア・イングリッシュ・ディキャンプ	英語に親しみ、松蔭を知っていただく機会として実施。	外部の先生方にご協力いただき、楽しみながら英語を学習。 昨年、募集定員がいっぱいになったので、午前・午後の2部制にした。	B	英語入試を実施することになり、8月午前午後、10月に実施したが、10月は英検の試験日と重複してしまった。実施日程に注意が必要。
		個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをやすくするよう、HPに申し込みフォームをつくる。
		プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	英語のプレテストも実施。 ご参加人数を増やす対策が必要。
		高校入試説明会 高校入学相談会	高校専願入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。在校生と話をする機会をより多く設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにした。	B	高校入学生に協力をお願いした。
		学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	英語教育に特化したリーフレット、中学生に配布するための高校入試ガイドを作成した。
情報提供 関連事項		DVDなど視聴覚物品	在校生の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	なるべく多くの方に配布する。
		中学受験雑誌記事など	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	神戸市バスの六甲道の時刻表、2系統のバス3台、地下鉄8、9月車内広告、阪神電車ステッカー広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
		学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	外部説明会など細かく情報を出し、より見やすくなるように工夫したい。
		ノベルティグッズ等	小学生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	文房具セット	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
		塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
学外教育機 関への広報		塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。 高校入試についても説明。	B	ご参加人数が減少してきている。塾の先生方にも興味をもっていただけるように工夫したい。
		模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	試験実施中に説明会を実施。	B	プレテストを実施するようになり、模試受験生が減ってきている。実施回数を減らした。

読書運動委員会 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動(第48回) 読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> 読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2017年度は「ふしぎ」。 テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 優秀作を図書館に展示。 国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を表彰(11月アセンブリーで)。 	A	<p>今年度も、どの学年も、生徒が興味を持てるような課題を設定してくれた。充実した推薦図書リストも出来上がった。また、「ふしぎ」という言葉は様々な解釈可能で、思春期にある生徒たちに様々な種類の課題を提供できると考えた。</p> <p>例年どおり、教員の思いに応じて、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。一方で、読書に興味を持ってない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、さらに教職員の協力を求めたい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 個人の嗜好に合わせた情報の発信の可能性も探りたい。 読書感想文、書評等の書き方の指導

			<ul style="list-style-type: none"> 各学年の最優秀作品は、第45回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：入選2作、佳作1作。高校：特選1作、佳作2作。高校特選1作は、県コンクールにおいて兵庫県知事賞、全国コンクールにおいて全国学校図書館協議会長を受賞。これによりサントリー学校賞も得た。 第48回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。 		<p>の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書運動冊子の活用法の検討。
		<p>ゴールドカード・プラチナカードの表彰</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得して、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。2月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。 	A	<p>たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。</p>
	<p>生徒が図書館を有効に利用できるようにする。</p> <p>生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。</p>	<p>総合学習等の調べ学習の際の利用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。 要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。 図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用役立ててほしい。 自習時間の利用にも対応した。 	B	<p>各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。</p>
		<p>図書館利用のルールを理解、遵守。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。 日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。 	A	<p>時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。</p>
		<p>広報等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、図書館クイズを掲載し、各種イベントの案内をした。 絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、レジンのチャーム作り、読書みくじ、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー（夏休み宿題お助け講座）等の各種イベントや、読書会を企画し、実施した。今後も実施していく予定。 高3卒業待機プログラムの一環として、司書体験活動を実施した。 ボランティア司書の活動（生徒の有志で第2・第4水曜の昼休み、書評や読書イベントの企画、私学SLAの図書委員研修会「ビブリオバトル」に参加等） チャリティブックバザーの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「はと時計」のますますの充実を目指す。 積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。
選書	<p>係による選書</p>	<p>生徒、教職員に必要とされる図書の充実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係による定期的な選書を行った。 書店へ出向いての選書（全教職員、教育実習生対象）を企画、実施した。 リクエスト本について、随時審議した。 	A	<p>より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。</p>